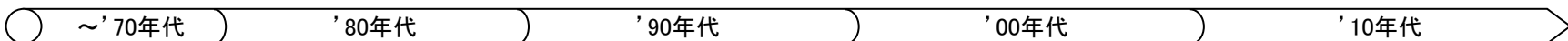


# 宅配便サービスの歴史的変遷



年	サービス	特徴/備考
35	宅配便の元祖「宅扱」(日本通運)開始	
76	宅急便「ヤマト運輸」開始	SEING (ヤマト運輸の前身)のロゴ
77	カンガルー宅配便「西濃運輸」開始	
77	ペリカンBOX「単便」(日本通運)開始	81年に「ペリカン便」に改称
81	フック「宅配便」(福山通運)開始	
83	小包包装用品「ゆうパック」(郵政省)販売開始	
83	「スキーマ」宅急便「ヤマト運輸」開始	レジャー対応
83	「ゴルフペリカン便」(日本通運)開始	
86	時間便「ヤマト運輸」開始	
88	夜間お届けサービス「ヤマト運輸」開始	
88	カール宅急便「開始」(ヤマト運輸)開始	夕方までに受付した荷物を翌朝10時までに配達
89	空港宅急便「開始」(ヤマト運輸)開始	コンビニで早朝集荷。地域限定で、東京発は関東圏を即日配達
92	宅急便タイムサービス「ヤマト運輸」開始	
94	スノーボードペリカン便「(日本通運)開始	
94	郵政省が土・日の時間外受付開始	
98	宅急便「ODAYサービス」(ヤマト運輸)開始	ケースの中空に商品を吊るして輸送
98	時間帯お届け「ヤマト運輸」開始	
98	梱包資材「パソコンポ」(日本通運)発売	
98	「ゴルフ・スキー」空港往復宅急便「ヤマト運輸」開始	復路運賃割引(100円)などがあり、伝票記入も1回で済む
98	佐川急便「(佐川急便)開始	企業向けに強さを進め、業界2位に
00	24時間配達「(佐川急便)開始	
01	各社ネットで集荷の受付開始	
02	宅配便メール通知サービス「(ヤマト運輸)開始	
02	「パソコン宅急便」(ヤマト運輸)開始	「ゆうパック」事業の拡大に対して、ヤマト運輸が郵政公社を提訴
03	日本郵政公社発足開始	
05	ペリカン便「新お届けサービス」(日本通運)開始	
05	「不在連絡eメール」サービス「(ヤマト運輸)開始	
08	「O」排出権付き飛脚宅配便「(佐川急便)開始	
10	「ペリカン便」と「ゆうパック」が融合、「ペリカン便」が消滅	
12	サークルKサンクスが「ゆうパック」から「宅急便」へ切替	
12	24時間電話集荷「(佐川急便)開始	
13	東京大阪間の当日配達「(ヤマト運輸)の16年開始を発表	14年には、関東・中部・関西間の当日配送を16年に開始すると発表
13	Amazonの取扱荷物を佐川が撤退、全てヤマト運輸へ	
13	羽田クロノゲート「運用開始で物流改革推進(ヤマト運輸)へ	
13	一部地域で開始「(ヤマト運輸)」	
14	使用済み小型家電の宅配回収開始「(佐川急便)」	専用ボックスにより、小さな荷物を配達
15	宅急便コンパクト「(ネコポス)開始	
16	Amazonプライム「(会員限定で一時間以内の配達を開始	

86年 「コレクトサービス」(ヤマト運輸)開始	96年 各社、ネットや携帯電話での配送状況照会サービス開始	00年 「e-コレクト」(佐川急便)	07年 Edy決済が可能に(ヤマト運輸)	14年 Amazonが大型ポストを日本郵便、ナスタと共同開発
87年 「代引きペリカン便」(日本通運)開始		01年 「クロネコ@ペイメントクレジットカードサービス」(ヤマト運輸)	11年 「nanaco」「Edy」「WAON」+「交通系電子マネー」での決済が可能に(ヤマト運輸)	14年 楽天市場が駅構内で荷物を受け取れる宅配ロッカー「楽天BOX」を試験運用
代金引換(通販会社向けサービス)	通販の複数決済が可能	02年 「e-決済サービス」(日本通運)		

★ヤマト運輸の「宅急便」が1976年に開始され、市場が成長していく中で、1982年に宅配便の件数が郵便小包を上回った。

★競争の激化でサービスの多様化が進み、市場は拡大したが、90年代前半には個人間需要が成熟し、伸び率は鈍化した。

★情報通信技術の発達、インターネットの普及により、ネット関連サービスが充実している。また、法人需要の開拓に注力している。